

## 明治神宮のザトウムシ目

### Opiliones (Arachnida) of Meiji Jingu, Shibuya-ku, Tokyo

鶴崎 展巨

Nobuo Tsurusaki

抄 録 東京都心部にある明治神宮において、2012年に採集されたザトウムシ類を検査した結果、モエギザトウムシ（カワザトウムシ科）とコアカザトウムシ（アカザトウムシ科）の生息が確認された。モエギザトウムシは、森林生息性の長脚型のザトウムシとしては、東京23区より初めて記録された。

**Abstract** Opilionid specimens collected from the precincts of Meiji Jingu, which is located in the center of the capital Tokyo, in 2012 were examined. As a result, a sclerosomatid harvestman, *Leiobunum japonicum* Müller (Sclerosomatidae) and a small soil-dwelling laniatorid, *Proscotolemon sauteri* Roewer (Phalangodidae) were found to occur in the precincts. The former is the first record of long-legged species of harvestmen within the area of 23 wards in Tokyo.

#### 調査方法

2012年5月1日, 25日, 7月2日, 3日に実施した土壌動物および昆虫類調査の際に採集された標本に基づいて、ザトウムシ類を記録した。

#### 調査結果

明治神宮内で2012年に行なわれた土壌動物調査・昆虫類調査の採集品にはザトウムシ類（クモガタ綱ザトウムシ目）が含まれていた。同定の結果、下記の2種であることがわかった。

クモガタ綱 Arachnida

ザトウムシ目 Opiliones

カイキザトウムシ亜目 Eupnoi

カワザトウムシ科 Sclerosomatidae

モエギザトウムシ *Leiobunum japonicum* Müller, 1914

3 juv., 25-V-2012, 北池南畔常緑樹林下リター中, 布

村 昇採集; 6 juv., 2-VII-2012, FIT, 岡田圭司採集; 地点ごとの内訳は, 常緑樹1=2 juv.; 常緑樹2=2 juv.; 落葉樹=2 juv.; 1 juv., 2~3-VII-2012, バイトトラップ, 岡田圭司採集。

国内では北海道から琉球列島まで非常に広範囲に分布する種である（他に朝鮮半島にも分布）。2~3 mmの小型の体に非常に細長い歩脚をもつため一見きゃしゃに見えるが、雑木林などの二次的な環境で見かけることが多い。卵越冬で、幼体は林床のリター中などに5月頃から見られる。成体は8月上旬から出現し、灌木や草本上で10月頃まで姿を見ることができる。

アカザトウムシ亜目 Laniatores

アカザトウムシ科 Phalangodidae

コアカザトウムシ *Proscotolemon sauteri sauteri*

Roewer, 1916 (図1)

3 ♀♀, 1-V-2012, 宝物殿北, 伐採地土壌表層部のシフティング (D2=2 ♀♀; D3=1 ♀), 青木淳一・芳村工採集; 248 ♀♀, 25-V-2012, 石井 清採集 (内訳は St. 1-1=1 ♀; St. 1-2=10 ♀♀; St. 1-3=2 ♀♀, St. 2-1



図1. コアカザトウムシ *Proscotolemon sauteri* の雌. 明治神宮, 25-V-2012, St. 2-1 (石井 清採集).

混合林=15 ♀♀; St. 2-2混合林=19 ♀♀; St. 2-3混合林=7 ♀♀; St. 3-1広葉樹林=15 ♀♀; St. 3-2広葉樹林=97 ♀♀; St. 3-3広葉樹林=82 ♀♀).

体長1.0–1.1 mmの小型のザトウムシ。茨城県以南の南西日本の低山地から平地の落葉・常緑樹林およびスギ林の林床リター中に生息する。生活史はよくわかっていないが、成体は周年採集される。本種のアカザトウムシ科への所属は近年疑問視されているが、ここでは暫定的に従来どおりの扱いとした。

## 考 察

ザトウムシ類は一生を通じて乾燥に弱く、一般に、適度な湿度を保つ森林以外での生息は難しい。大型・長脚の種で構成されるカイキザトウムシ亜目は、生息には特により広い林地面積を必要とするようで、関東

地方以西の都市部の緑地公園でこの仲間が見つかることはほとんどない。歩行以外の分散手段をもたないので、現在では生息条件の整った樹林地があっても、もともと樹林地でなかった場所に新規に造成された公園や、集団が一度絶滅した公園には、外部から再定着することが望めないからである。たとえば、大阪府吹田市の万博記念公園には現在、かなり広大な面積のよく育った樹林地（溪流を模した水路もあって適度な湿度も保たれているように見える）があるが、少なくとも大型・長脚のザトウムシは生息していないようである。

今回、明治神宮からは2種のザトウムシが確認された。このうちモエギザトウムシは東京都内では高尾山とその周辺では生息が確認されており、おそらく郊外であれば他にも多くの生息地があると考えられるが、東京23区内からはこれまで未確認であった（23区内から未記録なのは、オオナミザトウムシ *Nelima genufusca* など、森林生息性の他の長脚型・大型のザトウムシでも同様。ただし、長脚・大型であるが海岸性のヒトハリザトウムシについてはごく最近23区内での生息情報が得られた）。植栽にもなって他所から持ち込まれた可能性が完全に排除されるわけではないが、おそらく明治神宮には古くから生息し続けていたのではないかと考えられる。大切にしたい動物である。

コアカザトウムシは東京23区内でも千代田区皇居内吹上御苑で記録があり（鈴木, 1976）、筆者の手元にも文京区東京大学小石川植物園から採集された標本がある（26 ♀♀, 7-IV-1986, 小作明則氏採集）。今回、明治神宮（渋谷区）からも確認されたことは興味深い。同程度の規模の樹林地が残るところであれば他にも生息地が見つかるかもしれない。

コアカザトウムシは日本各地からこれまでに500個体以上が得られているが（今回の採集品を含まない）、沖縄県のいくつかの島嶼の集団で雄が得られている以外はいずれも雌で産雌単為生殖をされると考えられている（Tsurusaki, 1986）。今回の明治神宮内からの採集個体数は合計で251にも達しているが、すべて成体の雌であった。落葉中に潜りこめるようなサイズであることや産雌単為生殖能があることから、苗木の植栽などにもなって人為的に分布が拡大する可能性はモエギ

ザトウムシなどの長脚型の両性生殖種と比べれば、かなり高いと考えられる。

### 謝 辞

本稿でふれた小石川植物園の採集品を検査する機会を与えられた小作明則氏に御礼申し上げます。

### 文 献

- 鈴木正将, 1976. V. ザトウムシ目. pp. 34-35. 青木淳一ほか (編): 皇居および常陸宮邸の土壤動物. *Edaphologia*, (14): 25-44.
- Tsurusaki, N., 1986. Parthenogenesis and geographic variation of sex ratio in two species of *Leiobunum* (Arachnida, Opiliones). *Zoological Science*, **3**: 517-532.